

## 令和5年度第1回鳥取市政懇話会 議事概要

日 時：令和5年8月9日（水）10時00分～12時00分

会 場：鳥取市役所本庁舎7階 全員協議会室

出席者：【鳥取市政懇話会委員（7名）】

会長 児嶋祥悟委員、副会長 西垣豪委員

景下明美委員、下江信之介委員、武田恭明委員、綱本信治委員、野村康典委員

【鳥取市】

深澤義彦市長、羽場恭一副市長、尾室教育長、乾総務部長、

塩谷企画推進部長、河井経営統括監、竹間市民生活部長、小野澤こども家庭局長、

大野経済観光部長、岡都市整備部長

上田政策企画課長、酒本政策企画課長補佐

### 1 開会

### 2 市長あいさつ

本日は大変お忙しい中、また、連日猛暑が続いている中、令和5年度第1回鳥取市政懇話会にご出席いただき、感謝申し上げます。また、児嶋会長様をはじめ、委員の皆様におかれましては、日頃より鳥取市政の推進に格別なるご理解・ご協力を賜っており、心より感謝申し上げます次第である。

本日は、2つのテーマについてご議論・ご提言を賜りたいと考えている。まず1点目は、「こども政策について」である。国においては、こども・子育て政策について、今議論が進められているところであり、今年度からこども家庭庁が設置された。本市においても、こども家庭局を新たに設置し、これまで取り組んできているこども・子育て支援について、さらに充実・強化を図っていこうとしているところである。国の動向がまだはっきり見通せないような状況もあるが、国の動きにも呼応しながら、鳥取市としてしっかりと取り組んで参りたい。

2点目のテーマは、「アフターコロナの明るい未来づくり」である。5月8日には新型コロナウイルス感染症が従来の感染症法上の2類相当の位置付けから5類に移行し、新しい対応をしていくことになった。しかしながら、鳥取市保健所が所管している鳥取県東部エリアでは、7月30日現在、定点当たり22.17人の感染者ということで、5類に移行してから初めて20人台を超えている状況である。第9波という言われ方もしているが、少しずつ感染が広がっている状況があるため、引き続き、市民の皆様には、適切な感染予防策を励行していただきたいとお願いさせていただいているところである。一方では、アフターコロナということで従来の生活に戻りつつあり、人の動き等も活発になってきている。これから鳥取市

としては、アフターコロナを念頭に置いた様々な取組を力強く進めていかなければならないということで、令和3年10月には新型コロナウイルス感染症からの復興・再生プラン、略して「明るい未来プラン」を作り、全庁的に様々な事業を進めていこうとしているところである。

本日はこの2点について、委員の皆様から忌憚のないご意見・ご提言を賜りたいと考えている。よろしくお願い申し上げます。

### 3 会長あいさつ

#### ○児嶋会長

現在の委員での懇話会は、令和3年11月にスタートし、今回が最後となる。沢山のご発言をお願いしたい。

### 4 議事

#### (1) こども政策について . . . . .資料1

(説明)

(意見交換)

#### ○綱本委員

資料1の8頁に「こども ⇒ 心身の発達の過程にあるものをいい、若者を含む」と書いてあるが、とても曖昧な気がする。20代も「こども」に含まれるのか。

#### ■小野澤こども家庭局長

20～30代の方もこういった定義の中に関わってくるかと思うが、こちらの方では20歳前後の方までを想定している。

#### ○綱本委員

資料4の1頁に「放課後こども教室」の記載があるが、放課後児童クラブとは違うものか。

#### ■尾室教育長

「放課後こども教室」は、小学校1年生から6年生までどなたでも参加でき、学習や伝統文化の経験等ができる教室である。地域の方・ボランティアの方に講師となっただき、そこからこども達が学んでいく。それに対し、「放課後児童クラブ」は、基本的には小学校1年生から3年生までの児童で、家庭の事情で放課後にこどもだけで家で過ごすことが難しい場合に、地域の方が中心となって、一定の場所でこどもを預かるものである。現在では、ニーズが高い場合には、小学校6年生の児童まで受け入れている。

#### ○下江委員

資料1の6頁の「保育園等のICT環境整備」について、導入率が認定こども園で96.4%となっているが、これは次第に100%になっていくのか。このわずかな部分はどういうものか。

### ■小野澤こども家庭局長

現在、4園で導入されていないが、1園についてはこの度導入が決定し、もう1園については令和5年度中に導入される予定と聞いている。残りの2園については、今のところ導入予定はないが、こちらの方から導入促進の働きかけを行っていきたいと考えている。

### ○景下委員

資料1の8頁の「こどもまんなか施策の推進について」のところで、『こども等の意見の尊重が基本理念として掲げられるとともに』と書いてあるが、具体的にどういう形でこどもの意見を集約されるのか。こどもが手を挙げて意思表示をするものなのか、それともアンケートという形でこどもたちの意見を募るのか。

### ■小野澤こども家庭局長

今年度中に、公立小中学校等をモデル校という形で選定させていただいて、意見交換の場を設ける方法を考えている。また、提案書という形で、皆さんに紙を配布させていただいて、意見を書いていただく方法も検討している。

### ○景下委員

これは、こどもの代表から意見を聞くのではなく、全員に提案書を渡して意見を集約する方法と考えてよいか。高学年であれば聞かれたことに対しての意見は言えると思うが、小学校低学年のこどもの意見を集約する作業は、先生が精査されるのか、あるいはこども家庭局で集約されるのか。具体的なところを教えてほしい。

### ■小野澤こども家庭局長

現在のところ、まだ検討中で、こどもの意見を集約するためにどういう進め方が適しているか、教育センターとも相談しているところである。

### ○野村委員

鳥取市の待機児童はゼロか。また、鳥取市の子育て支援は充実しているが、一般市民の方々に向けても、これだけ取り組んでいるんだということが分かるように、もう少しPRされてもよいのかなと思う。

### ■小野澤こども家庭局長

待機児童については、令和5年4月1日時点ではゼロである。また、子育て支援のPR方法については、できるだけの機会を通してPRしていきたいと考えている。

### ○児嶋会長

PR方法は、CATVなど色々あると思うが、そういうものはやっていないのか。

### ■小野澤こども家庭局長

CATV等で全面的に行っているものはないが、鳥取市公式ウェブサイトで広報を行ったり、3月に新聞折り込みチラシを入れて、関係機関にも配布させていただいたりしている。

### ○網本委員

資料1の4頁に「ヤングケアラーに関すること」と書いてあるが、鳥取市にはヤングケアラーと言われる人は何人ぐらいいるのか。

## ■小野澤こども家庭局長

ヤングケアラーに関する相談については、令和4年までには24名、令和5年7月中旬までで10名の相談をお受けしている。現在は、担当の支援員を2名配置し、地域からの相談等に対応している状況である。

## ○綱本委員

小学校の「高学年・低学年」のことを「上学年・下学年」と表現することがあるようだが、その用語は決まったものか。

## ■尾室教育長

法的な根拠はないと聞いている。1～2年生を「低学年」、3～4年生を「中学年」、5～6年生を「高学年」と呼ぶ場合や、1～3年生までを「下学年」、4～6年生を「上学年」と呼ぶ場合がある。これは、教育関係施設で割引を行う時などに、便宜上、使い分けている実態のようである。

## ○野村委員

資料1の1頁に出生数の推移が出ており、1,600人台をピークに、今は1,200人台まで落ちている。鳥取市全体の人口も20万人から大分減ってきているが、これをまた20万人に引き戻すような政策、また、単純に人口が増えても働く場がなければどうしようもないため、その辺りも含めてトータルな観点からもう少し人口を増やすような施策を何か考えておられたら教えていただきたい。

## ■深澤市長

これはなかなか難しい課題と考えている。鳥取市の人口は、平成17年の国勢調査で201,740人であり、これが鳥取市で一番多かった人口である。令和4年は183,645人であるため、かなり減少してきている。先ほど平成17年と申し上げたが、西暦で言うと2005年であり、国全体は2008年の1億2,808万人をピークに、急激に人口が減少している。鳥取市のピークが2005年、国全体が2008年ということで、少しタイムラグがあるが、状況として同じような現象が生じている。これを現状維持から更に増加に転ずるような施策を講じていくというのは、なかなか厳しいと認識している。そうは言っても、これ以上減らないようにということと、出生数が増えるようにしっかりと取り組んでいく必要がある。それには、やはり結婚・妊娠・出産・子育てと切れ目のない支援をしっかりと行って、さらに充実を図っていくことをやり続けることがまず求められると考えている。国においては、冒頭で触れさせていただいたように「こども家庭庁」を新設した。財源の問題から施策そのものについてはまだ議論が進んでいるところであるが、なかなかこれも容易ではないと考えている。これ以上、人口減少がどんどん進んでいくと、国自体も活力がなくなっていく。また、高齢化率も高くなってきている。これは国策としても、また、地方自治体としても最優先の課題として認識しており、先ほど申し上げたような子育て支援策について、これからしっかりと取り組んでいかないといけないと考えている。

## ○児嶋会長

若者の出会いの場を作るような政策は、今までやっておられるか。

## ■深澤市長

婚活支援を行っている。これは、本市が、麒麟のまち圏域と一緒に取り組んでいるが、費用対効果はどうかと議会の一般質問の中でご指摘いただいている。婚活支援を行うことによって、新たにカップルが誕生されるということにはなかなか繋がらないが、持続してやっていくしかないと考えている。最終的には、若い世代の皆さんが将来に対して見通しが持てるような政策を行っていき、子どもを育てていくことによって経済的に負担があまり生じないように、そして、将来の見通しを持って、家庭を築き、子育てができるようなことをやっていくしかないのではないかと考えている。

## ○武田委員

昔から「一人は食えぬが二人は食える」というようなことを言う。そのような施策をしていただいたら、人口は増えると思う。ただ、昔と違い、今は仲人がいない。間に入ってくれるような人を育成して、接点を広げていくようなことをしないといけない。若い人はどういうふうに接点を見つけるのだろうかと思う。

## ○景下委員

確かに良いご意見だと思う。ただこの昨今、個人情報のことや他人の生活への介入に抵抗のある若者もおられるのは確かである。今流行りの婚活アプリは、私たちの世代はすごく抵抗があるが、今の若い人は、短い情報で、自分でこれだというところをアピールして、相手の情報も的確に収集して、理想の相手を見つける。そういう時代の流れであるので、それを否定するつもりはないが、こういう風に公的機関が婚活サービスを行うのであれば、安心もある。ぜひこれは続けてほしい。婚活支援は、安心ができて信頼のおけるところでのマッチングであれば、親世代としては良いかと思う。

## ○下江委員

今言われたようなお話の当事者は僕ら若者だと思うが、逆に、公的機関が行うマッチングの機会に参加する方が僕としてはハードルが高いイメージがある。僕はいわゆる「Z世代」にあたるが、Z世代は価値観が違ふとよく言われ、例えば、物を買うことにそこまで価値を感じない、車離れ等をよく言われる。昔は、働いて、家を建てて、車を持つというところに向かっていくというのが流れだったかもしれないが、僕らはどちらかというところあまりそこに興味がない。そこにお金を使うのであれば、経験や時間を買いたいというような思考を持っている人が多いのではないかと思う。そういうものをこの政策に置き換えた時に、下手をすると、若者のニーズを取り違えて政策を行ってしまうことが一番危険なのではないかと感じた。そういう価値観の違う若者の話を聞くような機会を、改めてもう少し設けていただいたら、僕らとしても嬉しい。

## ○綱本委員

江戸時代末期の日本の人口は、4,000万人だった。今は1億2,500万人ぐらいで、これから

人口が減ると慌てているが、条件を整えばすぐに人口は増える。今、人口が減っていることに対して、そんなに危機感を持つ必要はないと思う。子どもを産むことや結婚することに対しても、いろんな価値観が増えていて、子どもが生まれて、子育てに時間を取られるよりは自分の趣味の方に時間を使いたいという人も増えていると思う。昔は、子育てをして、子どもを大きく立派に育てることを目標としている人が多かったが、子どもに時間を費やすことが一生の間でもったいないという人も増えているのではないかな。

#### ○下江委員

こども政策で「経済的な支援」というのをよく耳にする。例えば、出産したらお金が貰えるような施策も、もちろん大切になると思うが、今話していただいたように、結婚して子どもを産むと、自分の趣味に充てる時間が少なくなってしまうと思う人も恐らくいると思う。お父さん・お母さんが自由な時間が貰えるような環境を整えば、子どもを育てたいと思う人もいるのではないかなと思う。

#### ○西垣副会長

私は建設業の会社をしているが、女性の職員が結婚することになり、県外に行かれることになった。今はIT化も進んできているため、初めての試みということで、県外と鳥取市で、このまま雇用を継続してみようというチャレンジをしてみたいと思っている。先ほど言われた結婚で失うものを減らす努力というのは、地域や企業がそれぞれ工夫して行い、良いものが鳥取市全体の施策に反映されたら良いと思う。大人になってからも鳥取にいたいことができる、結婚しても失うものは少ない、このまちはそういったものが満たされているというような感じになってくると、変わってくるのではないかなと思い、今実験をさせていただいている。

#### ○野村委員

息子が東京で暮らしているが、お嫁さんが鳥取市に帰ってきて、里帰り出産をし、孫の子育てを手伝っている。息子を育てた時は、子育ては大変だとはそんなに思わなかったが、孫になってくると自分の体力のこともあってか、もう一つ大変だということを切実に感じている。先ほど下江委員がおっしゃっていた価値観の相違も確かにある。こんなに時間を取られるのであれば、自分の趣味や楽しいことをしていた方が良いという意見もあるかもしれないが、それでは、人口も減るばかりで衰退の一途だと思う。子育ては大変だが、子どもが成長していく過程や一生懸命育てたからこそその喜び等も味わえるため、そういったことも少し考えていただけたらと思う。

#### ○武田委員

私は4件の仲人をして、ある家では子どもが4人生まれた。その方たちが挨拶に来られて、会話をするのが非常に楽しみである。そういうことも人生のうちの楽しみとしてある。昔はアプリがなく、仲人がお互いの相性や職業などを見ながら出会いのセッティングをしていた。そういうような人を市でもレクチャーして育てていけばよいと思う。

## ○児嶋会長

とても良いアイデアが出た。武田委員が言われたような方を募集されたら、鳥取市の人口も増えるかもしれない。市長はどう思われるか。

## ■深澤市長

アプリケーションのようなものではなく、人間の力というのがこういう出会いにはやはり必要なのだらうなどお話を伺いながら改めて感じたところであるが、なかなかそういう役割を担っていただける方が今少なくなっているのかなと思う。一つには、例えば、個人のいろんな状況に立ち入ったようなお世話をしていただくことがだんだん出来にくくなっていることが社会的な背景としてあると思うし、何よりもやはり若い世代の皆さんの価値観が非常に多様化してきているということがあるかと思う。その辺りにどこまで立ち入ることができるのか、立ち入るべきなのかという難しい問題もあると思うが、やはり行政としては、結婚を望んでいच्छる方に向けて、出会いの機会をいろいろ工夫して設けることを続けていくことがまず必要だと考えている。

## ○綱本委員

ヤングケアラーが母親を殺した事件があった。ヤングケアラーに対して支援金を出すような考えはないか。そのような支援があれば、少しは評価されているという気持ちが生まれると思う。評価されなかったら精神的に壊れてしまう。本当は、そういう方がお世話をするというのはおかしいと思うが、そういうケースがある限り、支援金など何らかの形で評価しないといけないと思うが、どう考えるか。

## ■小野澤こども家庭局長

ヤングケアラーの支援については、支援金はないが、家庭訪問や配食サービス、相談支援に入り、保護者にも面談を行い、できるだけこどもの負担を軽減していくような体制をとっていっているところである。

## ○綱本委員

鳥取市の離婚率はどうか。

## ■小野澤こども家庭局長

離婚については、令和4年度の窓口受理件数が255組、1日に0.7組ぐらいの方が離婚されているような状況である。逆に、結婚の方は、令和4年度の窓口受理件数は、708組、1日に1.9組の方が結婚されているような計算となっている。

## ○綱本委員

結婚した件数の約4割が離婚しているのは多いような感じがする。また、自死対策について、こどもの自死もあつたりする。鳥取市は「自殺」という言葉が遺族の感情を傷つけるということで「自死」という言葉を使っていると聞いているが、鳥取市ではあまり熱心に取り組んでいないのか。

## ■深澤市長

自死対策については、議会の一般質問等でも鳥取市の取組はどうかというようなご質問を

何回かいただいている。例えば、鳥取市だけではないが、「いのちの電話」で相談を受けるような体制をつくるなど、鳥取市としてもいろんな形で支援をさせていただいており、自死対策は非常に重要な対策であると認識している。なかなかあまり表立って自死対策でこうだということは市民の皆さんにはご認識いただいていないようなところもあるかと思うが、経済不況等でなかなか立ち行かなくなるなど社会のいろんな変化によってそのような状況が出てくるといえることがある。鳥取市としても従来からさまざまな対策を講じているが、そのあたりもまたご理解いただければと思う。

## (2) アフターコロナの明るい未来づくり・・・資料2

(説明)

(意見交換)

### ○網本委員

Uターンの人は地元の事情をよく知っておられると思うが、鳥取市をよく知らずに移住した人に対して、町内会や祭りのことなど、地元の人との人間関係についてアドバイス等はあるか。

### ■竹間市民生活部長

鳥取を知らない方が移住して来られる際にいろんな相談にのる中で、そういうこともお伝えしている。また、中には「お試し定住体験」として、用瀬・佐治・鹿野等にお試し定住体験施設を設置している。地元の団体の方に運営していただいている施設もあり、そういう方とお話をしていただくようなこともしている。

### ○下江委員

アフターコロナでリモートワークをする人も増えていると思うが、僕自身も鳥取に住みながら、鹿児島県の塾や都内の会社の仕事をバイトのような感覚で、リモートワークで行っている。これまで地方に住む大きなハードルとなっていた「雇用」という面では、今、地方はチャンスなのではないかと思っている。例えば、都内の会社から給料をもらって、それを鳥取で消費したら、鳥取の経済効果に繋がる。そういった意味で、こういったリモートワーク・リモートワーカーを支援するような事業をもっとやってほしいと思う。また、実際の当事者としてリモートワークをしていると、自宅ではあまりやる気が出ない時がある。そういう時に、最近では鳥取市内にもシェアオフィス等がいくつか増えてきているが、そういう場所がもっと増えたら良いと思う。自分の場合は、そういう場所に行くためには鳥取駅前まで行かないといけないが、いろんな場所に分散して、そういったリモートワークが出来るような場所がもっと開設されると嬉しい。

### ■大野経済観光部長

まさにおっしゃるとおりで、私どもの視点の一つとしては、先ほどもあったが、県外・都市



部等から収入を得ていただいて、地元で消費していただくことによって、かなり地元の経済への波及効果も出てくると思っている。このリモートワークについて、これから地元リモートワーカーの育成事業に取り組む中で、基本的には在宅で学んだことが実践できるが、在宅でずっとやるというのも集中力が続かなかったり、時間が自由になる分、学習が若干後回しになったりする等、いろんな弊害も出てくるため、やはり定期的に集まっていただくような場を作ることも必要だと思っている。それともう一つ、実際にリモートワーカーとして働いておられる方についても、リモートワークができる場所を確保していくことも必要だと思っている。これについては、鳥取市としては、なるべく中心市街地の活性化も含めて、そういう場を鳥取駅周辺に作っていきたいということで、既に鳥取駅周辺に何ヶ所かあるが、これからももう少しそういう場を増やしていけたらと思っている。また、鳥取大学前駅の前に1ヶ所、鳥取砂丘のトンネルの出口のところに1ヶ所というような形で少しずつ増えてきている。今後もそういった場所の整備を市としても極力考えていきたいと思っている。

#### ○野村委員

テレビで移住番組がたくさん放送されていて、空き家を活用した住まいや仕事など、受け入れ側が全て面倒を見ているような状況で、鳥取市がそこまで取り組んでいるかは知らないが、そこまでやらないとなかなか都会から知らない土地である鳥取に住み続けるというのは確かに難しいのかなと思う。若い方が来るということは、結果的にこどもも増えて、人口も増えるというようなメリットもあると思うため、その辺も含めて、現状でも十分取り組んでおられると思うが、何か特別にもっとやってみたいようなことがあったら教えてほしい。

#### ■竹間市民生活部長

おっしゃるように、地方は移住者を求めている。東京都在住の方には、都心に近い長野県や静岡県などが人気だが、その中でも鳥取が良いと言って来ていただける方としっかりお話をしているところである。今後の取組としては、関係人口ということで、鳥取に興味を持ってくださる方、1回限りの観光だけではなくて地域の方たちともいろいろ関わりを持ちながら鳥取に何回も足を運んでいただけるような方を増やしていくような取組をしたいと思っている。現在も、空き家運営業務委託事業といって、地元団体が空き家の利活用をされることに対して、市も支援をさせていただいている。地元の方でも移住者の方の受け入れを行っていただき、移住者の方が地元に入られた時も相談にのっていただくことによって、移住者の方が移住後も困られないような取組を進めているところである。そういうところとも連携をしながら、地域の中で鳥取の魅力を感じていただいて、将来的には鳥取市に住んでみたいと思っただけのような取組を、来年度からは今まで以上に進めていきたいと考えている。

#### ○景下委員

アフターコロナで新しい日常が始まっている。ピンチがチャンスではないが、例えば、先ほどおっしゃったように、コロナで会えない間はオンラインで移住相談をされた実績や鳥取市からリモートワークで鹿児島島の塾で教えていらっしゃるというような例もあって、新し

い時代の働き方・住まい方というものが、これからの日本全体の働き方・生活の形態を変えていくのではないかと今お話を聞いて実感しているところである。先ほど西垣副会長が失うものを防ぐということをおっしゃったが、鳥取市には国立大学と公立大学がある。そこに来られた学生をいかに鳥取に失わずに留めておくかが大きな課題だと思う。鳥取に来られた優秀な学生が働ける企業がない。でも、企業がなければリモートワークという形もあるということで、シェアオフィス等も少しずつ鳥取に出来つつあり、鳥取駅前のあるホテルでは、ワークスペースを設けている。鳥取駅周辺には、他にも数多くのワークスペースがある。これから新しい日常を鳥取で推進するには、そういうリモートの場所もある、また、市街地で温泉が湧いているのは鳥取市だけで、疲れたら温泉で癒される場所もあるというような、売り出す魅力はいっぱいあると思う。もっと鳥取の魅力を発信していただいて、学生をなるべく鳥取に定住させていただきたいというのが個人的な希望である。

#### ■大野経済観光部長

先ほどご指摘があったが、鳥取市に大学が2つもありながら、非常に地元就職率が低い状態が続いている。中国地方の他県の状況を見ると、大卒者の地元就職が進んでいる。一つには、鳥取には事業所が少ないからという話があるようだが、先ほどおっしゃられたように、仕事の働き方が多様化してきているため、企業の有無ではなく、鳥取でいくらでも活躍していただける場があるということも含めて、何とか鳥取市に留まっていただくような方策を引き続き考えていきたいと思っている。

#### ○武田委員

移住相談会について、東京・大阪では開催されているが、名古屋がない。そういうような観点からいくと、経済圏として神戸もない。私の親戚が名古屋に住んでおり、大阪に出向しているが、鳥取は高速道路が無料で良いと言う。これを前面に出してほしい。そういう利点を説明するには、移住相談会は8回の出展予定ではなく、10~15回ぐらい行ってもらいたいと思う。

#### ■竹間市民生活部長

「打って出る」ということで、こちらからも積極的に出向いていきたいと思っている。参考として、大阪府にある鳥取市関西事務所に、移住定住専任相談員を1人設置しており、その方にも関西圏在住の方からの相談にのっていただいている。

#### ○西垣副会長

鳥取砂丘の西側・東側ということでゾーン分けをして、どんどん整備が促進されてきているが、東西がしっかりと繋がって、全体を束ねるような組織体はあるか。

#### ■大野経済観光部長

今のところ全体を束ねる組織体はないが、おっしゃられるように、これから西側の開発がどんどん進んでいくため、東と西でどうやって上手に周遊してもらえるような仕掛けができるかということについて、県・市の協議体でも一つの大きな課題となっている。砂丘全体をどうコーディネートしていくかということも含めて、PRのあり方や組織的な部分で

う連携していくのかというところを検討していく必要があると考えている。

#### ○下江委員

資料2の14頁の「まちなか観光推進事業」の『(4) 三階櫓ARコンテンツ制作事業』の内容について、大阪大学と連携してARの作成及びコンテンツの企画について共同研究されるというのはとても良いと思った。大阪大学と連携するということは、その学生の方は、関係人口になっていく。先ほど、県内の学生が県外へ出て行ってしまっている状況があるというお話もあったが、学生の立場で言うと、鳥取県内に住んでいて、何かとても引き留められているような感じがあり、それが少し重荷になるかなと思うところもある。そういった中で、もちろん県内の大学生を引き留めるというのも一つの点かもしれないが、逆に県外の大学生に、上手く鳥取市に関わってもらい、そこで関係人口になって、最終的には鳥取で就職する、もしくは起業するような学生が生まれてくると、関係人口の政策としても、観光事業としても、そして官学連携の事業としても、いろんな相乗効果が生まれてとても良いのではないかと思った。県外の大学と連携した市の事業が他にあるのか、また、今後取り組むとしたらどのようなものが想定されるのか。

#### ■塩谷企画推進部長

現在、県外の大学と連携した取り組みとして、明治大学との交流を進めている。明治大学の創立者の1人が鳥取市出身者ということで、明治大学と一緒に学生同士の交流等にも取り組んでいるところである。8月末にも、明治大学から学生が来られて、とっとり若者地方創生会議のメンバーと交流をする事業も計画している。実際に明治大学の方で、数年前に鳥取市に来られて交流された方が、鳥取市の企業に就職された例もあるため、引き続きそういった交流を進めていき、県外から鳥取に来ていただくというような道を広げていきたいと考えている。

#### ○下江委員

大学の方でも、最近、地域での活動を推進したいと考えているところは多いと思う。一方で、東京の場合は、大学は沢山あるが、実践の場が少ないということもあると思うため、県外大学連携のターゲットを東京の大学等にしても面白いのではないかと思う。鳥取だと、福岡や名古屋もターゲットにできれば、とても面白くなりそうだと思う。

#### ○児嶋会長

とても良い意見だと思う。

#### ■深澤市長

鳥取大学・環境大学の学生の皆さんは、鳥取の地をフィールドとして地域に出向かれて、地域の皆さんと一緒に地域課題に取り組んでいこうと活動をしておられるところがある。むしろ、そのような活動の場を求めるといことであれば、地方の鳥取市のようなまちが適し、そういった可能性が大にあると思う。県外の大学生の皆さんにもお越しいただいて、鳥取でいろいろ実践をしていただくような取組もこれからさらに進めていきたいと今お話を伺いながら思ったところである。

### ○綱本委員

中心市街地活性化について、袋川の鳥取駅側のところを削り、もう少し活用できるようにしたらよいのではないかと思う。京都では、鴨川で警察音楽隊が土手で演奏練習をしたり、大学のクラブが土手の下で演技の練習をしたりしている。袋川を文化芸術の拠点にするぐらいのつもりで改修できないか。

### ■岡都市整備部長

中心市街地活性化ということで、袋川は重要な視点になっている。昨年度も鳥取商工会議所の青年部から、本通りパーキングの前の歩道部分に階段を作って、桜等をゆっくり眺めるようなことはできないかというような提案をいただき、現在検討はしている。ただ、袋川の場合は川幅がなく、一気に水が来るため、なかなか難しい。また、桜土手の桜がかなり高齢化しているため、今年度から来年度にかけて管理計画を作って、これを維持していきたいと考えている。

### ○武田委員

今の袋川の件に関して、私は毎朝土手を散歩している。若桜橋の山側の袂のところは雑草林になっている。昔植えたつつじが、形が悪いまま残っている。例えば、それを抜いて、別のところに移植するなどして、そこを綺麗にしてほしい。また、智頭橋の袂に広場があるが、若桜橋の袂にも作ってほしい。広場が作られれば、例えば、しゃんしゃん祭の時などに2ヶ所で休憩できる。また、山白川を防災上の観点から埋めてほしい。今すぐにはできないかもしれないが、そこを埋めれば道が拡がり、観光的にも良い。以前、川の上に鉄板を置いてほしいとお願いした時に、農業関係など6つぐらいの部署が関わるので難しいと言われたことがあるが、防災上、命に関わることであるため、できることならやって欲しい。これが、いわゆるまちなか活性化にも繋がるのではないかと思う。

### ○児嶋会長

最後に、西垣副会長にまとめをお願いしたい。

### ○西垣副会長

アフターコロナの明るい未来づくりということで、観光や鳥取駅前のこれからの再整備など、未来が明るくなるようなお話を沢山聞かせていただいた。最初の議論にもあったが、鳥取のこれからの未来というのは、これから生まれてくるこどもたちや今のこどもたちの未来にも繋がっていくものである。また、学生さんの鳥取に対する魅力の向上にも繋がっていくものだと思うため、やはり鳥取市だけに任せず、私たち民間側も精一杯寄り添って、理解をして、その行動ができるようになっていく必要があるのではないかと改めて思っている。これからもこういった市民の声を聞く場を大事にいただき、市民と共にまちづくりができたと思う。

### ■深澤市長

本日は、いつもより委員の皆様のご出席が少し少なめだったが、その分だけ非常に深掘りしたご議論をいただいたように思う。心より感謝を申し上げる。また、現在の委員の皆様の任

期が11月25日までのため、このメンバーでの懇話会は本日が最後となるが、この懇話会でさまざまなご議論・ご提言をいただいたことに、改めて感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症が3年以上に渡って猛威を奮っており、日常生活でも行動制限があったが、ここに来て徐々にコロナ前に戻りつつあるように思っている。またこのコロナ禍を経て、社会の在り様が大きく変わってきたように思う。リモートワーク、テレワーク等のいろんなご意見・ご提言もいただいたが、そのようなことを考えると、鳥取のいろんな地域資源やポテンシャル、潜在力を生かしながら、これからさらに前進をしていく時期にあるのではないかと考えており、むしろ鳥取市にとってはチャンスではないかと考えているところである。これからも市民の皆さんと一緒に、これから鳥取市がさらに良いまちになるように、力強く前進を図って参りたいと思う。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。本日は活発なご議論をいただきましたことに、重ねて感謝申し上げます。